

埋文

とやま

Toyama Prefectural Center for Archaeological Operations

2023.6.30

VOL.

163



小竹貝塚出土品（富山市呉羽）
〈ヘラ〉

「ヘラ」は一端を薄くして刃をつけたものです。魚などの解体・加工をしたり、付着物を削りおとしたりする、幅広い機能をもった便利な道具と考えられます。表面は研磨されてツルツルしており、薄くて軽く、使い心地がよさそうです。左下のものは、50代の女性である11号人骨付近から出土しました。愛用していた道具を一緒にお墓に入れたのでしょうか。

とっておき埋文講座 ● 企画展「見て、知って！とやまヒストリー2023」

埋文あらかると ① ● 収蔵品の棚卸（その後とフィルム）

② ● 古代農場「まいぶんファーム」2022 栽培日記 - ササゲ、エゴマ、綿花、タデアイ -

③ ● 刊行！富山県出土の重要考古資料第15集 とやまの古代集落遺跡出土品

Center Flash ● 夏の催しガイド 2023

● 人のうごき

古写真発掘！ ● 巖照寺遺跡 砺波市福岡 ほか

富山県埋蔵文化財センター

企画展「見て、知って! とやまヒストリー2023」

— 富山県の旧石器時代から近現代までの歴史を発掘出土品から学ぶ —

とっておき埋文講座

はじめに

この企画展は、主に歴史学習を始めた小学6年生や中学生向けに、県内の遺跡から発掘された出土品を通して歴史への関心を深めてもらうことをねらいとしています。さらに、歴史や考古学に詳しい大人にも興味をもってもらえるよう、数多くの出土品の中から特徴的なものを厳選して展示しました。

また、今年度の特設コーナーは、「遺物は何しに富山へ?」です。当センター所蔵の出土品の中から、古来より人や物の交流が活発であったことを物語る出土品を紹介しています。どの地域から、どんなものが富山に伝わったのか、わかりやすいように日本列島の模型で表現しました。実物や詳しい解説は、各時代に展示しています。



それでは、各時代の見どころについて、特設コーナーで紹介している出土品とともに、簡単に紹介します。

旧石器時代

すくさか直坂II遺跡(富山市)の第1・第9ユニットの石器は、東京都立大学の出穂雅実准教授を代表とする研究成果の紹介を兼ねて

います。出土した炭化物の放射性年代測定によって約33,000年前という結果が出た資料で、富山県で初めて後期旧石器時代の年代が明らかになったものです。

ひのみや 道のり 遺跡(小矢部市)の細石刃核は、細石刃とよばれる細長い石器の素材となるもので、北海道や東北地方で見られる石器と似ています。富山県ではきわめて珍しく、単独で発見されたことから、なぜここで出土したかは謎です。東北地方から来た旧石器人の「落とし物」なのかもしれません。



縄文時代

縄文土器は草創期を除いた早期・前期・中期・後期・晩期の土器を展示しています。早期から順に土器を見ていくと、器形や文様が時代によって大きく変化していることが分かります。

縄文時代には石材の特徴に応じて様々な石器が作られ、利用されました。長野県の諏訪や和田、島根県の隠岐の黒曜石で作った石鏃が見つかります。平岡遺跡(富山市)では岐阜県の下呂石で作った石匙や石錐が見つかり、布尻遺跡(富山市)からは飛騨の濃飛流紋岩で作った打製石斧が出土しています。

また、縄文人のアクセサリーとして、琥珀の玉やヒスイの垂飾、オオツタノハの貝輪などがありますが、これらの材料も遠くから運ばれてきたものです。



弥生時代

大陸から稲作が伝わった時代ということで、稲作に使われた木製品を数多く展示しました。また、江上A遺跡(上市町)の炭化米や、下老子笹川遺跡(高岡市)の石包丁を展示しました。

弥生土器は形や文様がシンプルで、米を炊く際に熱効率がよい器形へと変化しています。下老子笹川遺跡からは、縄文のある土器や、細かく鮮やかな文様の入った土器も出土しています。これらはそれぞれ東北地方や岡山県の影響を受けています。

また、富山県は玉づくりも盛んでした。下老子笹川遺跡で出土した鉄錐は、玉づくりの穿孔具として使われたもので、化学分析によると、中国山東省の鉍石で作られたものだということです。



古墳時代

古墳時代では、豪族などそれぞれの地域で権力のある人が、力の象徴として大きな墓(=古墳)を造りました。古墳からは鉄刀や銅鏡、玉類(アクセサリ)など、様々な出土品が見つかります。今回展示したのは加納南古墳群(氷見市)の出土品です。

鉄刀や鉄鉾は朝鮮半島由来のもので、朝鮮半島やヤマト王権とのつながりがあったのかもしれませんが。

また、この時代の土器は弥生土器から続く土師器に加えて須恵器が登場します。朝鮮半島からやってきた渡来人によって、須恵器の製作技術が伝えられました。中谷内遺跡(氷見市)などから、大阪府の陶邑で生産された須恵器が出土しています。



古代

惣領浦之前遺跡(氷見市)、諏訪遺跡(高岡市)から和同開珎が出土しています。和同開珎は律令体制が成立したことを国の内外に示す象徴のひとつです。

また、当時の農民には租・調・庸などの税が課せられ、多くの人々が重い負担に苦しんでいました。平城京木簡(レプリカ)は、税の品に付けられた荷札です。富山から鯖や鮎の干物、米などの品物が税として都に納められたと書かれています。



中世

珠洲焼は、中世を代表する焼き物の1つです。今の石川県の珠洲で焼かれた、灰黒色の色合いが特徴です。甕や壺、播鉢など日用品に使われていました。

中世は、中国との貿易が盛んに行われました。このとき、中国の銅銭が大量に輸入され、全国で使われるようになりました。

また、白磁や青磁、青花といった磁器も盛んに輸入されました。白磁は透明な釉をかけて素地の白さを際立たせています。権力者や富裕層ばかりではなく、一般的な集落にもみられます。



近世

豊臣秀吉は1592年に朝鮮を攻めましたが、このとき朝鮮から連れてこられた職人たちが、日本に焼き物を伝え、伊万里焼や唐津焼などが始まり、全国へ流通します。県内各地の遺跡からも多く出土しています。

この時代はタバコを吸う文化も広がりました。タバコの葉を入れる火皿がついた雁首、口にくわえる吸口は金属で作られています。雁首と吸口の間は、竹などで作った筒でつなげていました。

さらに、江戸時代になると、富山では売薬がさかんになります。富山県立図書館よりお借りした「反魂丹由緒書」は、富山の売薬の目玉である「反魂丹」の由来を記したものです。



近現代

戦時統制下の陶磁器や、軍用行李を展示しています。これらは戦争の記憶を語り継ぐ貴重な資料として、後世につなげていくべきものです。

また、富山県公文書館より提供いただいた「鉄道会社創立願」を展示しました。これは、旧富山藩主や加賀藩主らが発起人となって、北陸の発展のために鉄道を作ろうと計画したものです。



越中地域考古資料(早川荘作蒐集品)

今回の企画展の目玉として、国の登録有形文化財である「越中地域考古資料(早川荘作蒐集品)」を展示しています。富山県の考古学の草分け的存在の一人である早川荘作先生は、明治、大正、昭和の長年にわたり、県内外の遺跡から遺物を収集されました。それらは昭和44年に富山県に寄贈され、当センターで「早川コレクション」として保存、活用してきましたが、平成20年に、「越中地域考古資料(早川荘作蒐集品)」として、国の登録有形文化財になりました。考古資料としては全国でも2例目であり、県内では第1号となります。

なお、当センターでは、「考古学少年団」の活動を行っています。この中から早川先生のような考古学者が生まれるといいなと思っています。小学6年生から中学3年生までなら、誰でも入団できますので、興味のある人はぜひ入団してください。



終わりに

富山県にある数多くの遺跡や貴重な出土品の魅力を感じていただけるような展示にしました。

紙面で紹介した以外にも、人や物の交流が活発であったことを物語る出土品をたくさん展示しています。ぜひ当センターへ見に来てください。ご来館をお待ちしています。

(善徳 甚樹)

2021年6月30日発行の『埋文とやま』Vol.155で「収蔵品の棚卸」という記事を書きました。今回は、その棚卸のその後について紹介します。

前回、富山県としての発掘調査が約50年を迎えるというようなことから、当センターが収蔵する出土品がセンター建物内だけでも約23,000箱もあると紹介しました。

その後も何十年もの間に蓄積された出土品を日々コツコツと見直す作業が続いています。

遺物箱をみていると、調査当時の忙しかった日々がしのばれるように、報告書を作成したときそのままの状態のものがたくさんあります。具体的に言うと、遺物の写真のワンカット分を箱に並べたそのままの状態であるもの等が特に昔の調査の箱には多くあります。

報告書を作成するのに手いっぱい、接合や復元が十分にできていない出土品も数多くあります。そうした中から、これはと思うものを拾いだして、これまた業務の合間を縫ってコツコツと接合したり復元して皆さんにお披露目できるようにしています。写真は、平成元年に調査した東黒牧上野遺跡の遺物箱を棚卸した際に見つけた土器を接合復元中のものです。Vol.155で紹介



した土器等と共に、いずれ、お披露目したいと思います。



写真(フィルム) 収蔵庫の一角

また、最終頁に連載中の「古写真発掘」は写真収蔵庫の棚卸とも言えるでしょうか。現在のところ、古い年代の発掘調査の写真から探していますが、35mmのネガアルバムに保管された写真を一枚一枚みると、報告書には掲載されていない、貴重な写真を多く発見します。頁数の制約があり、掲載されなかった写真、発掘調査に参加して下さった地元の皆さんを撮影した記念写真のようなものもあります。

今回の「古写真発掘」は、厳照寺遺跡の埋蔵^{うめがめ}というか、その上にかぶされていた石が「おにぎり」のように見事な

三角形で、とても興味深く、あらためて紹介したくなり、掲載しました。

発掘調査現場の写真は、撮り直しができない上に、当時の写真から読み解くしかない情報もあるので、それは貴重なものです。前号の「とっておき埋文講座②」でも紹介されたように、直坂Ⅱ遺跡の発掘調査時の写真から様々なことがわかりました。

現在では、写真は全てと言ってよいほどデジタル写真になりましたが、昔は、フィルムで撮影していました。フィルムは、現像してさらに印画紙に焼き付けて初めて写真になります。こうした現像フィルムは繊細で、保管するにも温湿度に気を付けないと劣化してしまいます。

また、現像フィルムの保管はかさばってたいへんです。土器や石器も調査した遺跡が増えるほどに増えるのですが、地面の下から掘り出してしまった以上、貴重な歴史の証言者として保管



厳照寺遺跡の発掘調査現場の35mmカラーネガ

していかなければなりません。そして、保管するだけでなく、これまで皆さんに公開する機会もなかったものの、ぜひとも御覧いただきたいもの

を見つけ出して、お披露目していきたいと思います。

(境 洋子)

埋文 あらかると

②

古代農場「まいぶんファーム」2022 栽培日記

— ササゲ、エゴマ、綿花、タデアイ —



当センターでは、令和2(2020)年度から敷地内に古代農場「まいぶんファーム」を整備し、縄文人が食べていたとされるササゲ(三尺ササゲ、奈川ササゲ)とエゴマのほか、江戸時代から全国で本格的に栽培が始まったとされる綿花を栽培しています。令和4(2022)年度からはさらに、日本で古くから行われてきた藍染の藍の原料となるタデアイの栽培も始めました。

収穫したササゲとエゴマは、縄文人も食べていた食材として、現在、当センターで展示、紹介しています。綿花は考古学少年団の団員が綿から糸を紡ぐ体験活動を行いました。タデアイは藍の生葉染めの体験活動を検討中です。どうぞ、ご期待ください。

◆ササゲ



(7月13日)
5月20日に種蒔き、同22日に発芽し、つるがずいぶん伸びました。



(7月16日)
藤色の花が咲きました。このきれいな花は、朝しか見られません。



(8月13日)
鞘が熟しました。収穫です。

◆エゴマ



(6月17日)
今年も昨年こぼれた実から発芽した苗を植え付けました。



(10月12日)
開花しました。蜂などの昆虫が媒介者となって受粉します。



(11月2日)
刈り取りを迎えました。この後、天日干しにしました。

◆綿花



(5月26日)
令和4年度は考古学少年団の団員が一人一株栽培をしました。



(6月19日)
オクラの花にそっくりです。どちらもアオイ科の植物なのです。



(8月26日)
実が開いて綿ができました。触ると、中に種がありました。

◆タデアイ



(7月16日)
定植した苗が大きくなってきました。



(8月25日)
生葉染めに適した大きさになりました。



(10月12日)
白く小さな花がたくさん咲き、この後、たくさんの種ができました。

(黒部市立村椿小学校 教頭 松嶋 隆徳)

刊行！ 富山県出土の重要考古資料第15集 とやまの古代集落遺跡出土品

当センターは、平成19年度から、富山県の代表的な遺跡の出土品を紹介する冊子として「富山県出土の重要考古資料」を14冊刊行してきました。今回は第15集として、古代集落遺跡の出土品を紹介します。

現在、古代の集落遺跡は県内で約600遺跡確認されています。このうち文字関連の資料に焦点をあて、10遺跡238点の出土品を選定しています。

特に、高岡市の出来田南遺跡は、掘立柱建物と倉庫が計画的に配置されており、公的・官衙的な様相を持つ集落とされています。幅10m前後の大溝からは人面墨書土器や斎串などの律令祭祀具のほか、硯や木簡、墨書土器などの文字関連資料が出土しています。

円面硯は脚部が筆立てとなっている珍しいタイプの硯です。荷札木簡は「丸部飯刀自女」という女性が「十月十六日」に「上米一半」の米進納をしたという、人名、日付、内容等がわかる貴重な資料です。また、墨書土器には下級女官の職名である「采女」や、管理事務的な性格の施設名である「大家」と書かれたものがあり、これらは出来田南遺跡を公的・官衙的集落と考える根拠とな

る、重要な資料です。

本書が富山県の貴重な文化財に興味を持つきっかけとなり、より関心を深めていただければ幸いです。



出来田南遺跡円面硯(左側の脚部が筆立て)



出来田南遺跡木簡



出来田南遺跡・井口本江遺跡出土品

Start up

チャレンジ とやまヒストリー 2023 開催!

埋文では、考古学に触れられるプログラムをたくさん用意しています。
夏休みの課題にもぴったりです。ぜひ埋文に訪れてみませんか。

① 親子で挑戦 ワクワク体験教室

親子で楽しみながら古代のものづくりにチャレンジします。

対象：小学4～6年生の児童とその保護者

<メニュー>

- ・ 刀鍛冶の体験をしよう……………7月25日(火)、7月26日(水)、
7月27日(木)
- ・ 古代の鏡の鑄造を体験しよう…7月29日(土)、8月1日(火)
- ・ クルミの垂飾づくりを体験しよう…8月2日(水)、8月3日(木)
- ・ 古代のアジロ編み・漆塗りを体験しよう……………8月5日(土)
- ・ 藍染を体験しよう……………8月8日(火)、8月9日(水)
- ・ 大型まが玉づくりを体験しよう…8月10日(木)

(全ての日程で、午前・午後の2回ずつ開催します。事前申込が必要です)



② こども考古学講座

7月30日(日)、8月6日(日)、8月11日(祝・金)

対象：小学4～6年生

<内容(予定)>

- ・ 考古学って何? ・ 発掘調査ってどんなことをするの?
- ・ 県内には、どんな遺跡があるの? ・ 本物の土器をさわろう!
- ・ 普段は入れない収蔵庫を探検!

(事前申込が必要です)



③ 夏休み考古体験コーナー まいぶん研究室 7月24日(月)～8月27日(日)

・ 校下の遺跡や出土品を調べたり、クイズコーナーなど楽しく考古体験ができる特設コーナーを開設します。

(事前申込は不要です)

※詳しくは、チラシ、HPでご確認ください。

人のうごき 4月1日付での異動をお知らせします

■異動 所長代理 境 洋子
調査課長 岡本 淳一郎

■退職 上席専門員 安念 幹倫
(3月31日付)

■転出 副主幹 田中 道子 (公財)富山県文化振興財団へ
社会教育主事 松嶋 隆徳 黒部市立村椿小学校へ
主任専門員 竹中 亮 富山土木センターへ

■転入 副主幹 島田 亮仁 (公財)富山県文化振興財団から
副主幹 町田 尚美 (公財)富山県文化振興財団から
主任専門員 高倉 隆司 富山土木センターから
社会教育主事 金谷 奉賢 上市町立上市中央小学校から

古写真発掘!—《17》



ごんしょうじ いせき

厳照寺遺跡

昭和51年（1976年）撮影 砺波市福岡 ほか

厳照寺遺跡は、砺波市の芹谷野段丘の西側縁辺部、標高約80mにあります。

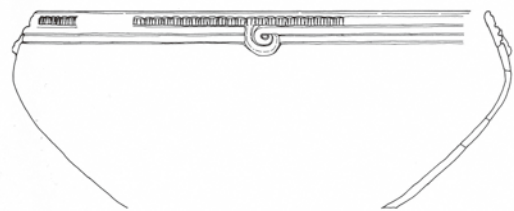
この遺跡も、これまで紹介した多くの遺跡と同じようにほ場整備事業に伴って昭和51(1976)年に発掘調査が行われました。昭和40年代後半～昭和50年代前半にかけては、ほ場整備ラッシュの状況でした。

第1地点から第3地点の発掘調査区があり、住居跡が10棟見つかりました。

また、この調査で出土した土器群が「厳照寺式土器」として縄文時代中期中葉の富山県の標式土器となっています。

上の写真は、第1地点を東から撮影したものです。奥には砺波平野が広がっています。

下の写真は、第3地点で見つかった埋甕の上に置かれた石と、埋甕(浅鉢)の出土状況です。口径は約45cmで底部は意図的に欠いています。この土器の実測図は、厳照寺式土器の説明の際によく紹介されるものです。



埋甕(浅鉢)実測図

編集後記

新型コロナウイルスが5月8日に第5類感染症に移行し、来館学習の子ども達もマスクなしの元気な声が聞かれるようになりました。また、夏休みには「チャレンジとやまヒストリー2023」を開催します。皆様のご来館をお待ちしております。(担当 青山)

富山県埋蔵文化財センターニュース「埋文とやま」VOL.163

令和5年6月30日発行 編集／富山県埋蔵文化財センター 〒930-0115 富山市茶屋町206-3 TEL076-434-2814
URL <https://www.pref.toyama.jp/3041/miryokukankou/bunka/bunkazai/maibun/index.html>

